

平成28年度 施策評価表 (平成29年度向け施策の取組方針)

施策名: 地域の歴史
 施策番号: 17 - 01

1 施策の基本情報

施策名	17 地域の歴史	展開方向	01	文化財や歴史資料等の地域資源を保存・活用するとともに、地域の歴史や文化財に関する情報を市内外に発信します。
主担当局	教育委員会			

2 目標指標

指標名	方向	基準値	目標値 (H29)	実績値					現時点での達成率
				H25	H26	H27	H28	H29	
文化財収蔵庫での展示会の観覧者数		H26 10,579 人	15,000	1,228	10,579	11,397	**	**	18.5%
田能資料館での展示会の観覧者数		H26 11,685 人	15,000	12,600	11,685	29,625	**	**	100%
指定・登録文化財の件数		H24 104 件	109	106	107	108	**	**	80.0%
地域研究史料館相談利用(レファレンス)人数		H24 1,833 人	2,200	1,877	2,201	2,442	**	**	100%
地域研究史料館所蔵史料整理・公開比率		H24 76 %	78	76	77	79	**	**	100%

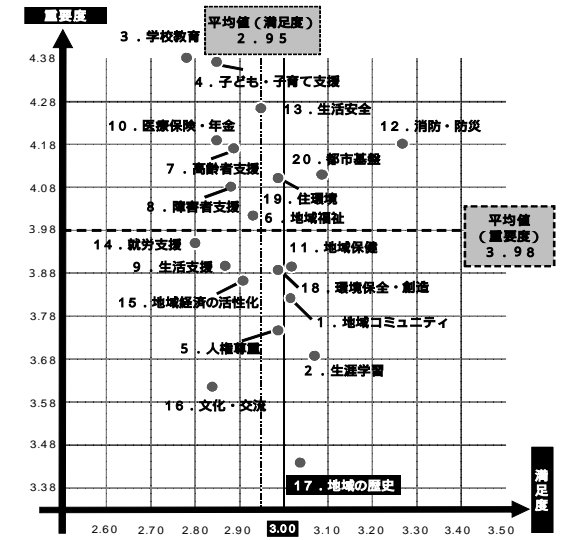
4 担当局評価(一次評価)

これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)(平成27年度実施内容を記載)	
行政が取り組んでいくこと	歴史遺産の保存と活用
総合戦略	
<p>(文化財収蔵庫・田能資料館) [埋蔵文化財の保全・調査、地域の歴史や文化財に関する調査研究・資料収集、調査研究成果の情報発信] 埋蔵文化財取扱いの手引きの発行・配布、埋蔵文化財専用電話の設置等により、市民・事業者の利便性向上を図り、法令に基づく協議を円滑に進めるため、計画策定早期段階からの埋蔵文化財取扱い協議の周知徹底に努めた結果、平成27年度の事前の照会件数は、前年度から52件増えて1,811件となり、事前調整が図られてきている。 市文化財指定については、平成27年度は新たに安土桃山時代の尼崎の水運の状況を示す貴重な資料「豊臣秀次朱印状」1件を指定し、45件となっている。国登録文化財については新たな登録は無いが、尼崎市は、阪神間第1位、兵庫県下第5位の42棟となっている。文化財の指定・登録は新聞等に取り上げられることも多く、尼崎の歴史や文化財の豊かさをPRする良い機会になっている。また、新たな取組として、新指定文化財について紹介する講演会を中央公民館と連携して開催することで、尼崎の豊かな歴史を紹介し、都市イメージの向上とシビックプライドの醸成を図ることとしている。(目標指数)</p> <p>[史跡・文化財や歴史資料等の各種収集資料の保存・公開、観光資源としての活用] 資料収集を寄贈・寄託に限るなか、平成27年度は63点増加し、収蔵資料数は27,094点になった。しかし、資料購入のあり方は今後の課題となっている。また、収集資料は温度湿度が管理できる民間倉庫を借りて保管しているが、資料の公開・活用面等での制約もあり、保管のあり方も課題となっている。公開・活用については、尼信会館での展示会を含め文化財収蔵庫の展示会の観覧者数が前年度より818人増え11,397人となった。引き続き、貴重な歴史資料の更なる公開を進めるとともに、適切な管理を行うため、早急に施設整備を進めていく必要がある。(目標指数) 文化財を歴史遺産として保存、活用し、市民と協働で戦略的に情報発信していくための方策等については、市民懇話会の意見を踏まえ、平成27年度は歴史遺産の保存・活用をテーマとするシンポジウムを開催し、定員を上回る160人の参加者があった。また、田能資料館では、特別展等を開催するなか、市民の歴史学習に対する意欲や郷土愛を育て、市外からの来館者も多く、尼崎の魅力発信にもつながっている。展示に関連したワークショップを取り入れて来館者の年齢層の幅を広げるとともに、特別展の期間を2週間延長するなどにより、平成27年度の観覧者は前年度の11,685人から29,625人へと増加した。今後もさらに工夫を行っていく。(目標指数)</p> <p>(地域研究史料館) [地域の歴史や文化財に関する調査研究・資料情報、調査研究成果の情報発信] 史料利用・公開の分野では引き続きレファレンスサービスを重視し、Webサイト等を活用した情報発信に努めた。年間相談利用人数2,442人。市民、学生、市内団体・企業、庁内など多種多様な利用があり過去最高を記録した。(目標指標) 公式Webサイト年間アクセス数(ページビュー)2万4700件、同史料・論文検索20万2,300件。ブログ年間アクセス数23万7,800件。Facebook1記事あたり平均閲覧352人(平成26年度230人)、多い記事は約3,000人。ブログとFacebookは、いずれも開館日1日1件の記事を掲載した。 Webコンテンツの年間アクセス数は、「Web版尼崎地域史事典apedia」102万件、「Web版図説尼崎の歴史」5,600件、「尼崎藩家臣団データベース分限」4,800件、「絵はがきデータベースあまがさきPCD」9万4千件。 市制100周年に関連して増大している各種の実績数字を、100周年後も維持していくことが課題である。 情報を市内外に発信する歴史刊行物の編集・活用。 史料館紀要「地域史研究」(年刊)を600部発行し、115冊販売、レファレンス利用年間101件であった。 市制100周年記念新「尼崎市史」(平成28年度刊行予定)の編集・組版データ作成を行った。 市制100周年記念新「尼崎市史」刊行後は、これの頒布・配布・活用を図っていくことが課題である。</p> <p>[歴史資料等の各種収集資料の保存・公開] 地域研究史料館の史料調査・収集・整理・公開を継続し、古文書・近現代文書類2,260点、歴史的公文書160点をはじめ、計7,957点の史料を新たに受け入れた結果、平成27年度末現在の所蔵史料点数は34万点となった。また13,739点を年度中に整理・公開した結果、累積整理公開点数27万点、所蔵点数に占める比率は平成24年度より微増し79%である。(目標指標)引き続き調査・収集に努め、また市民ボランティアの協力を得つつ整理・公開を進めていく。歴史的公文書の分野における本庁保管・各課保管現用文書の調査、電子媒体の行政資料など多様な関連資料の把握、保存・活用についての関係部局との連携・協議、本格的な公文書館事業実施に向けた法制度準備等が課題である。</p>	

3 市民意識調査(市民評価)

項目内容	重要度				
歴史遺産の保存と活用 地域の歴史に関する学習機会の提供 など	重要	まあ重要	ふつう	あまり重要でない	重要でない
27年度	14.3%	26.1%	51.4%	6.0%	2.2%
26年度	第20位 / 20施策	5点満点中	3.44点(平均3.98点)		
25年度	第20位 / 20施策	5点満点中	3.38点(平均3.99点)		
満足度	満足	どちらかといえば満足	ふつう	どちらかといえば不満足	不満足
27年度	2.5%	13.4%	71.2%	10.8%	2.0%
26年度	第4位 / 20施策	5点満点中	3.04点(平均2.95点)		
25年度	第2位 / 20施策	5点満点中	3.07点(平均2.95点)		

割合の合計は、端数処理の関係により100%にならない場合があります。



5 施策評価結果(二次評価)

評価と取組方針			
<p>・地域の歴史や文化財に関する調査研究・資料収集、調査研究成果の情報発信の取組により、文化財収蔵庫・田能資料館での展示会の観覧者数が増加するなど、着実な成果が見られる。</p> <p>・歴史館機能の整備を機に、限られた財源の中、既存資料のより一層の活用や他市施設などとの連携による展示内容の充実に努めるほか、市制100周年記念新「尼崎市史」の発行やwebなど様々なコンテンツを用いて市内外へ情報発信していくことで、幅広い層に地域の歴史に興味を持ってもらい、協働のまちづくりへとつながる取組を進める。</p> <p>・歴史的公文書・行政資料等の保存については、電子化も含めた保存のあり方・基準の検討に取り組む。</p> <p>施策の二次評価は「現行継続」とし、これまでの取組を基本としながら、効果的な施策遂行に努める。</p>			
総合評価			
<table border="1"> <tr> <td>重点化</td> <td>転換調整</td> <td>現行継続</td> </tr> </table>	重点化	転換調整	現行継続
重点化	転換調整	現行継続	

次年度に向けた取組方針 (平成29年度予定を記載。必要に応じて平成28年度も含む。)
<p>(文化財収蔵庫・田能資料館) [史跡・文化財や歴史資料等の各種収集資料の保存・公開、観光資源としての活用] 平成28年度は市制100周年記念として文化財収蔵庫での企画展、尼信会館での展示会、総合文化センターとの共催展を計画し、学芸員による展示解説や展示関連講座を開催するほか、市政課題研修として職員対象の展示解説講座を新たに開催するなど、シビックプライドの醸成を図ることとした。 歴史資料等の公開・活用については、城内地区における都市再生整備計画の中心拠点誘導施設として進められる(仮称)歴史館の整備により、歴史豊かな尼崎の魅力を市内外に発信すべく、平成29年の実施設計に向けた取組を進める。 平成28年度は国有地となっている富松城跡を取得することにより、地域の貴重な歴史遺産の保全を図るとともに、更なる協働の取組を進める。</p> <p>(地域研究史料館) [地域の歴史や文化財に関する調査研究・資料情報、調査研究成果の情報発信] 絵はがきデータベースに引き続き、ボランティアの協力を得ながら、史料館内で閲覧可能な所蔵写真データベースについて積極的に構築準備を進めている。</p> <p>[歴史資料等の各種収集資料の保存・公開] 原簿保管の歴史的公文書・行政資料等の保存・活用に関する調査及び関係部局等との連携・協議を進める。</p>
新規・拡充の提案につながる項目
<p>(文化財収蔵庫・田能資料館) [史跡・文化財や歴史資料等の各種収集資料の保存・公開、観光資源としての活用] 富松城跡の取得と、市内で展開されている各種の歴史遺産を活かしたまちづくりの取組と連携するとともに、戦略的に情報発信することで都市イメージの向上とシビックプライドの醸成を図り、歴史遺産を活かした市民との協働のまちづくりを進める。</p>
改革・改善の提案につながる項目
<p>(文化財収蔵庫・田能資料館) [史跡・文化財や歴史資料等の各種収集資料の保存・公開、観光資源としての活用] (仮称)歴史館の整備にあわせて歴史博物館資料取得基金は廃止し、基金に属する現金は、収集資料の保存活用経費へ充当する。</p>

平成28年度 施策評価表 (平成29年度向け施策の取組方針)

施策名: 地域の歴史
 施策番号: 17 - 02

1 施策の基本情報

施策名	17 地域の歴史	展開方向	02 地域の歴史に関心を持つ市民の学習機会や場所の充実など、ともに学びあえる環境づくりを進めます。
担当当局	教育委員会		

2 目標指標

指標名	方向	基準値		目標値 (H29)	実績値					現時点での達成率
					H25	H26	H27	H28	H29	
文化財収蔵庫・田能資料館主催事業の参加者数		H26	1,388 人	1,500	1,089	1,388	1,640	**	**	100%
文化財収蔵庫ボランティアの活動者数		H24	2,183 人	2,400	2,270	2,712	2,828	**	**	100%
地域研究史料館講座・自主グループ参加人数		H24	854 人	895	870	848	820	**	**	92.0%
地域研究史料館出講・協力件数		H24	25 件	44	37	44	66	**	**	100%
地域研究史料館ボランティア作業延べ人数		H24	434 人	492	476	492	612	**	**	100%

3 市民意識調査(市民評価)

項目内容	歴史遺産の保存と活用 地域の歴史に関する学習機会の提供 など
------	-----------------------------------

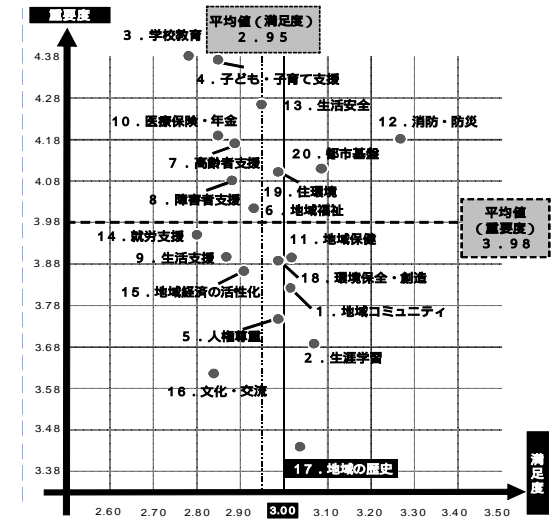
重要度

	重要	まあ重要	ふつう	あまり重要でない	重要でない
27年度	14.3%	26.1%	51.4%	6.0%	2.2%
26年度	第20位 / 20施策	5点満点中	3.44点 (平均3.98点)		
25年度	第20位 / 20施策	5点満点中	3.92点 (平均4.39点)		

満足度

	満足	どちらかといえば満足	ふつう	どちらかといえば不満足	不満足
27年度	2.5%	13.4%	71.2%	10.8%	2.0%
26年度	第4位 / 20施策	5点満点中	3.04点 (平均2.95点)		
25年度	第2位 / 20施策	5点満点中	3.07点 (平均2.95点)		

割合の合計は、端数処理の関係により100%にならない場合があります。



4 担当局評価(一次評価)

これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)(平成27年度実施内容を記載)
<p>行政が取り組んでいくこと 地域の歴史に関する学習機会の提供 総合戦略</p> <p>【市民が地域の歴史や文化財に触れる機会の提供、歴史学習に関するボランティアの養成、市民グループ等との連携、市民が歴史を調べ学ぶことのできる拠点施設の整備】</p> <p>市制100周年記念事業の一環として、尼崎の歴史文化を学ぶ拠点となる歴史館機能の整備に向けて、城内地区における都市再生整備計画を策定した。また、尼崎城について、城址公園内に建築し寄付するとの申し出があり、寄付者と寄付に関する協定を締結し、整備内容について協議を進めた。</p> <p>(文化財収蔵庫・田能資料館)</p> <p>【市民が地域の歴史や文化財に触れる機会の提供、歴史学習に関するボランティアの養成、市民グループ等との連携、市民が歴史を調べ学ぶことのできる拠点施設の整備】</p> <p>歴史や文化財に触れる機会の提供については、文化財収蔵庫では地域の歴史や文化財をわかりやすく伝えるため、講座、見学会のほか、市民ボランティアの協力を得て実施する体験学習会や尼崎ゆかりの民話の朗読、人形劇・紙芝居の上演、むかし映像の上映会など、各年齢層に応じた学習機会の提供に努めた。(目標指標)</p> <p>田能資料館においても参加者が実物に触れ、生活の一端を復元するなど、楽しみながら昔のくらしや知恵を実体験できる「古代のくらし体験学習会」を実施しており、平成27年度は申し込み制の学習会以外にも来館者に対するイベントなどを増やすことによりリピーターや学習会への参加者が前年度の431人から735人へと大幅に増加した。また、ボランティアとの協働により、円形平地住居1棟の茅の葺き替えを完了することができた。今後も、こうした成果を踏まえ、ボランティアの協力も得ながら、さらに学習会などの参加者の増加を図っていく。(目標指標)</p> <p>ボランティアの養成については、文化財収蔵庫では、体験学習の指導やその素材となる綿等の栽培を行う「れきし体験学習ボランティア」と、出土遺物の保存と活用作業を行う「文化財サポートボランティア」の養成に努めている。登録者の入れ替わりがあるものの、人数は前年度並みの100人超を確保し、文化財収蔵庫を拠点に学芸員との協働による積極的な活動が展開できるようになっており、平成27年度の延べ活動者は前年度から116人増加し2,828人となっている。(目標指標)</p> <p>市民グループ等との連携については、尼崎郷土史研究会、尼崎ボランティア・ガイドの会、富松城跡を活かすまちづくり委員会等の歴史・文化財関係団体のほか、地域団体・老人会・NPO法人等市内の各種団体からの依頼に応じ、連携・協力を努めているほか、地域の歴史や文化財に関する研修会・見学会等に学芸員を派遣している。平成27年度は30回、延べ1,145人と前年度から参加者は減少したが、これは平成26年度には地域団体等からの依頼による園和小学校校舎耐震工事に伴う発掘調査現地見学会を開催したことによるもので、これを除くと、前年度とほぼ同程度の受講・参加があった。引き続き、ボランティアを始めとする市民グループと連携することにより、地域の歴史や文化財にふれる機会の充実につとめ、シビックプライドの醸成の一助とする。</p> <p>(地域研究史料館)</p> <p>【地域の歴史を学ぶ場と機会の提供】</p> <p>地域研究史料館事業における学習機会と場の提供としては、尼崎の通史を学ぶ講座「『尼崎市史』を読む会」を平成6年度以来実施しており、平成27年度は例会・分科会合わせて24回開催、延べ375人が受講、昨年度より微増した。また尼崎地域の古文書を学ぶ自主グループ「尼崎の近世古文書を楽しむ会」を3グループ計62回開催し、延べ445人が受講した。受講者数総計が820人であり、基準値854人より減少している。新たな受講者の開拓等が課題である。(目標指標)</p> <p>【歴史に関わる多様な取り組みへの連携・協力】</p> <p>史料館主催講座以外に、他団体・機関からの要請による史料館職員の出講、歴史に関する講座・展示・調査・出版等の企画への連携・協力も日常的に実施しており、多様な形で学ぶ機会・場作りに協力している。平成27年度は市民団体・民間機関からの要請によるもの30件、公的機関からの要請によるもの20件、計50件出講した。市政出前講座や市の職員研修、公民館等が実施する市民講座のほか、日本アーカイブズ学会など全国規模の学会が開催する研究会への出講事例もある。また歴史講座・展示・調査・出版等の企画への連携・協力を日常的に行っており、このうち書面を取り交わすなどして実施したものが16件である。(目標指標)市制100周年のプレ期間ということもあって講座出講件数が大幅に増加しており、複数の職員が分担して対応しているが、他の業務を圧迫する状況にある。</p> <p>【史料整理・活用に協力する市民ボランティア事業の実施】</p> <p>地域研究史料館における市民ボランティアは、月1～2回の定例グループ作業3種類及び複数メニューの随時個人作業、年2回体験講座として実施する下張りはがし作業とメニューを用意して参加を募り、平成27年度は計327回、参加実人員81人、延べ人数612人の参加を得た。(目標指標)職員のマンパワーだけでは実施し得ない史料整理やデータ入力成果を得るとともに、市民の多様な作業体験機会を作ることができた。平成27年度は館公式Webサイトの募集情報からのボランティア応募が増加した。引き続き、参加者数の増加に対応していくための環境整備が今後に向けての課題である。</p>

<p>次年度に向けた取組方針 (平成29年度予定を記載。必要に応じて平成28年度も含む。)</p> <p>【市民が地域の歴史や文化財に触れる機会の提供、歴史学習に関するボランティアの養成、市民グループ等との連携、市民が歴史を調べ学ぶことのできる拠点施設の整備】</p> <p>歴史館機能の整備について、平成28年度に博物館登録の条件整理や整備内容の調整等を行った上で、平成29年度に実施設計を行う。また、寄付される予定の尼崎城については、新たな、歴史・文化資源として同整備計画と整合を図りつつ、その活用方策について、具体化させる。</p> <p>(文化財収蔵庫・田能資料館)</p> <p>【市民が地域の歴史や文化財に触れる機会の提供、歴史学習に関するボランティアの養成、市民グループ等との連携、市民が歴史を調べ学ぶことのできる拠点施設の整備】</p> <p>田能資料館では平成28年度から田能資料館等で実施する体験学習会や茅葺き復元住居の葺き替え、学校等団体見学の対応などに協力していただく田能遺跡サポーター 養成事業を行う。</p> <p>(地域研究史料館)</p> <p>【史料整理・活用に協力する市民ボランティア事業の実施】</p> <p>地域研究史料館主催の講座・自主グループを継続するとともに、市民主体の歴史企画との連携・協力を重視し、協働による学習機会と場作りをさらに推進していく。多様な市民ボランティア作業の実施を継続するとともに、Web等を活用し、活動のPRを進める。一方で、ボランティアの協力機会が増加するにつれ、その準備にあたる史料館職員の業務上の負担も増加している。史料館の受入体制の整備、および効率化に努めていく。</p>
新規・拡充の提案につながる項目
改革・改善の提案につながる項目

5 施策評価結果(二次評価)

<p>評価と取組方針</p> <p>・今後寄贈を受ける尼崎城や新たに取得する富松城跡といった歴史資源と連携した、城内まちづくりや歴史館の整備に取り組む。これらの整備を機会に、市内外の幅広い層に地域の歴史に興味を持ってもらうことに加え、周辺の商店街なども含め、地域資源を最大限活用する方策を検討するなど、「16文化・交流」施策と連携した取組を進めていく必要がある。</p> <p>・地域の歴史に触れる機会、学ぶ場の提供により、主催事業の参加者数やボランティアとして協力いただける人数は着実に伸びている。今後とも、田能遺跡サポーター養成事業など、地域の歴史に触れる機会の創出を通じて、対象の拡大に努めるとともに、さらなる郷土愛の醸成、協働のまちづくりにつなげていく。</p> <p>施策の二次評価については「転換調整」とし、より効果的な取組への転換に向け調整を行う。</p>			
総合評価			
<table border="1"> <tr> <td>重点化</td> <td>転換調整</td> <td>現行継続</td> </tr> </table>	重点化	転換調整	現行継続
重点化	転換調整	現行継続	

平成28年度 施策評価表 (平成29年度向け施策の取組方針)

施策名: 地域の歴史
 施策番号: 17 - 03

1 施策の基本情報

施策名	17 地域の歴史	展開方向	03 住んでいる地域や尼崎市への愛着と誇りが育つよう、地域の歴史や文化財等の魅力を分かりやすくしっかりと伝えていきます。
主担当局	教育委員会		

2 目標指標

指標名	方向	基準値		目標値 (H29)	実績値					現時点での達成率
		H26	H27		H25	H26	H27	H28	H29	
尼崎の歴史に関心を持っている市民の割合		H26	55.8 %	68.5	62.6	55.8	56.0	**	**	1.6%
本市の文化財に関してマスコミが取り上げた回数		H24	84 回	97	84	86	173	**	**	100%
むかしのくらし学習で文化財収蔵庫に来館した小学校数		H24	22 回	41	23	24	26	**	**	21.1%
学校等と連携した出張授業等の実施回数		H24	23 回	41	25	52	58	**	**	100%
田能資料館の来館者数		H26	29,874 人	31,500	34,858	29,874	47,721	**	**	100%

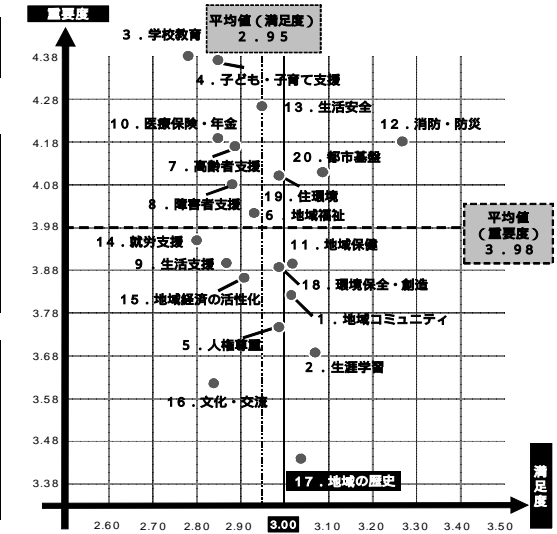
4 担当局評価(一次評価)

これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)(平成27年度実施内容を記載)	
行政が取り組んでいくこと	住んでいる地域や尼崎市への愛着と誇りを育てる (文化財収蔵庫・田能資料館) 【学校や社会教育施設、市民グループ等との連携による歴史・文化に触れる学習機会や場の拡充】 小学3年生の社会科のカリキュラムに即した文化財収蔵庫での「むかしのくらし学習」は、平成27年度は市立小学校の半数を超える26校となり、学校教育との連携による歴史・文化に触れる学習機会の充実に努めている。(目標指標) また、尼崎にゆかりの作物(綿や尼いも)の栽培・活用による学校・園での地域の歴史学習を支援する「栽培活用支援事業」は、平成27年度は21校で、教員・学芸員・ボランティアが学校で体験や映像等を活用した授業を行う「出張授業」では地域学習を意識した授業展開に努め、平成27年度は前年度より7校多い21校に増加した。(目標指標) これら学校との連携にあたっては学校カリキュラムの関係で定期的に集中する傾向があり、指導者の育成や新たな手法の開発が必要な段階に差しかかっている。 平成25年度から開始した園和北小学校田能遺跡クラブとの学社連携の取組については、復元土器による炊飯の実施に加え、平成26年度は同小学校内に田能遺跡の土器や石器を展示し、歴史学習に役立てるなど校区内にある資料館として交流を深めた。また、他の小学校で古代米植え体験を実施するなど、田能資料館を知ってもらうきっかけづくりに努めた。引き続き、学校と連携するなか、身近に考古に親しむ機会を積極的に提供していく。(目標指標) 国登録文化財の大庄公民館の魅力を発信すべく、新たに大庄公民館との連携によるボランティアガイド養成の取組のほか、公民館講座への学芸員の派遣や事業企画の連携・協力、図書館のロビー展示への収蔵資料の展覧や展示企画の連携・協力等を行っており、社会教育主事、司書、学芸員がそれぞれの専門性を活かして連携することで学習機会の充実に回り、社会教育施設での収蔵資料の活用にも努めている。また、平成27年度は尼崎市総合文化センターや阪神間各博物館施設とも連携して、尼崎市南部地域のあゆみを紹介する「あまがたり展」を開催するなど、市外への情報発信を図り、5,540人が来館者があった。(目標指標) 田能資料館では「出張勾玉づくり」を継続して実施し、田能資料館のPRに加え、歴史に触れる学習機会の充実に努めるなか、参加者からは好評を得た。また、平成27年度は「わくわく体験教室」を受け入れ、子どもたちが歴史等に触れる機会を提供するとともに、引き続き、社会教育施設等と連携した歴史・文化に触れる学習の機会の充実に努めている。(目標指標) 平成26年度16,116人(1日平均52人)であった文化財収蔵庫来館者数が、平成27年度は20,076人(1日平均65人)に増加しており、文化財収蔵庫の城内移転、整備の成果が現れてきている。 田能資料館では、地域のボランティア8人と職人の協力を得ながら取り組んだ円形平地住居の茅葺き替えが大きな反響を呼び、新聞やラジオで取り上げられた。また、積極的な情報発信を行ったこともあり、田能資料館の平成27年度の入館者は前年度比60%の高い伸びとなった。(目標指標) 住んでいる地域や尼崎市への愛着と誇りの醸成を図るべく、きめ細かな情報発信に努めた結果、新聞やテレビなどで尼崎の歴史や文化財について取り上げられた回数が平成27年度は前年度から倍増した。(目標指標) (旧尼崎警察署) 【学校や社会教育施設、市民グループ等との連携による歴史・文化に触れる学習機会や場の拡充】 市制100周年のイベントとして、平成27年10月4日に尼崎歴史音楽祭実行委員会と共催で「あまがさき歴史音楽祭」を開催した。アンケートにおいて、「歴史音楽祭を通じて、城内地区に親しみを持っていたりいただけましたか?」の項目で約86%が「親しみを持った」という回答であった。
総合戦略	

3 市民意識調査(市民評価)

項目内容	歴史遺産の保存と活用 地域の歴史に関する学習機会の提供 など				
重要度	重要	まあ重要	ふつう	あまり重要でない	重要でない
27年度	14.3%	26.1%	51.4%	6.0%	2.2%
26年度	第20位 / 20施策	5点満点中	3.44点(平均3.98点)		
25年度	第20位 / 20施策	5点満点中	3.38点(平均3.99点)		
満足度	満足	どちらかといえば満足	ふつう	どちらかといえば不満足	不満足
27年度	2.5%	13.4%	71.2%	10.8%	2.0%
26年度	第4位 / 20施策	5点満点中	3.04点(平均2.95点)		
25年度	第2位 / 20施策	5点満点中	3.07点(平均2.95点)		
24年度	第2位 / 20施策	5点満点中	3.08点(平均2.91点)		

割合の合計は、端数処理の関係により100%にならない場合があります。



5 施策評価結果(二次評価)

次年度に向けた取組方針 (平成29年度予定を記載。必要に応じて平成28年度も含む。)
(文化財収蔵庫・田能資料館) 【学校や社会教育施設、市民グループ等との連携による歴史・文化に触れる学習機会や場の拡充】 田能資料館では、兵庫県の施策として中学校で実施される「トライやるアクション」などの機会も活用し、田能遺跡への愛着を育ていく。 平成28年度は文化財収蔵庫や田能資料館等の社会教育施設をめぐるバスツアーや、親子で学ぶ体験講座を実施し、わがまちの歴史に対する関心を高め、郷土愛を醸成する。 平成28年度も尼崎市総合文化センターとの連携により「忍たま乱太郎ミュージアム」特別企画展として戦国時代の尼崎をテーマとする展示会を開催することで、都市イメージの向上とシビックプライドの醸成を図る。 田能資料館では、平成28年度には方形竪穴住居の茅葺き替えを予定しているが、進捗状況によっては平成29年度にも引き続き取り組んでいく必要がある。さらに、高床式倉庫については足場を組む必要性なども含めて、今後ボランティアと協議を進めていくこととする。 (旧尼崎警察署) 【学校や社会教育施設、市民グループ等との連携による歴史・文化に触れる学習機会や場の拡充】 歴史音楽祭については、平成28年度は市制100周年記念事業として2日間実施する。平成29年度以降については、尼崎の歴史への関心を高める手段としての効果を見極めつつ、後援などの形で継続的に協力をしていく。
新規・拡充の提案につながる項目
改革・改善の提案につながる項目

評価と取組方針		
・勾玉づくりなどの体験型事業や社会教育施設をめぐるバスツアーなど、行政からアプローチする事業の実施を通じて、幅広い層に地域の歴史に興味を持ってもらえるよう取組を進める。 ・新聞などでも取り上げられ、来館者数の大きな伸びにもつながった田能資料館の茅葺き替えなどのように、地域の歴史に関心を持ってもらい、市民と協働して、地域の貴重な施設を保存や活用していく取組を進める。 施策の二次評価は「現行継続」とし、これまでの取組を基本としながら、効果的な施策遂行に努める。		
総合評価		
重点化	転換調整	現行継続